忘れられない一冊の本

人がより良く成長していく上で大切なのは、書物から知恵をくみ取ることであろう。私の忘れられない一冊の本は「凧を追う人」だ。

12歳のアフガニスタンの資産家の坊ちゃんと召使いは親友だ。ある日、凧の試合を終了するところが、坊ちゃんは召使いに凧を追わせた。彼は疲れたからだ。その時こそ、召使いは悪い子にいじめをされた。坊ちゃんは隣で見て、助けなかったとは。家に帰った後、お父さんは召使いの傷を見て驚いた。二人はお父さんに聞かれたながら、何の言わなかった。次第に、坊ちゃんはお父さんに連れられて戦争でアメリカに逃げた。ただし、召使いはアフガニスタンの動乱で生活し続けていた。数年後、坊ちゃんはそのことを思い出して、気になってしょうがないだ。……

この小説は迫力があって、私は長い間で酔わせていた。政治史だけでなく、幼少期の選択の影響についての物語だ。愛は宝くじだ。